

6 地域防災について

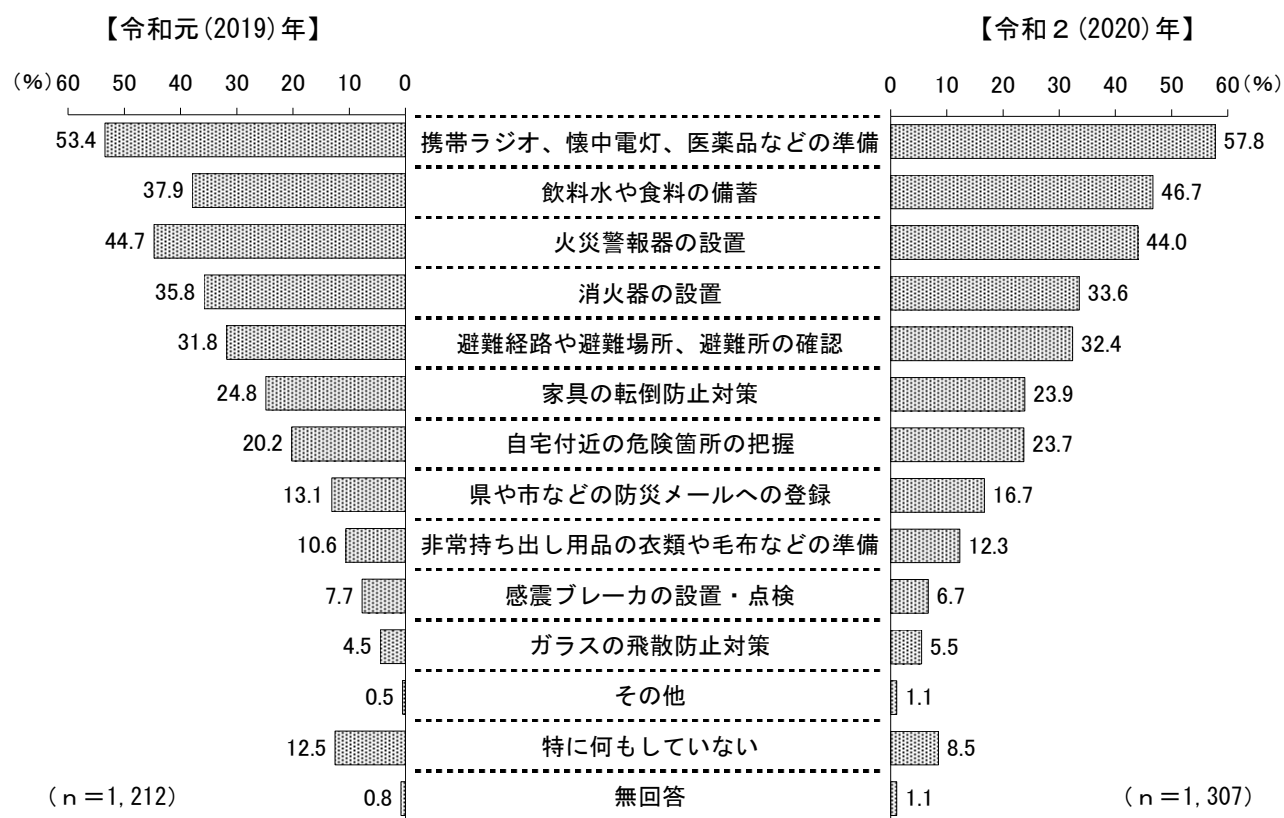
(1) 災害に対する備え

問15 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,307]

1 消火器の設置	33.6%	8 感震ブレーカ(※)の設置・点検	6.7%
2 火災警報器の設置	44.0	9 避難経路や避難場所、避難所の確認	32.4
3 家具の転倒防止対策	23.9	10 県や市などの防災メールへの登録	16.7
4 ガラスの飛散防止対策	5.5	11 自宅付近の危険箇所の把握	23.7
5 飲料水や食料の備蓄	46.7	12 その他	1.1
6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備	57.8	13 特に何もしていない	8.5
7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備	12.3	(無回答)	1.1

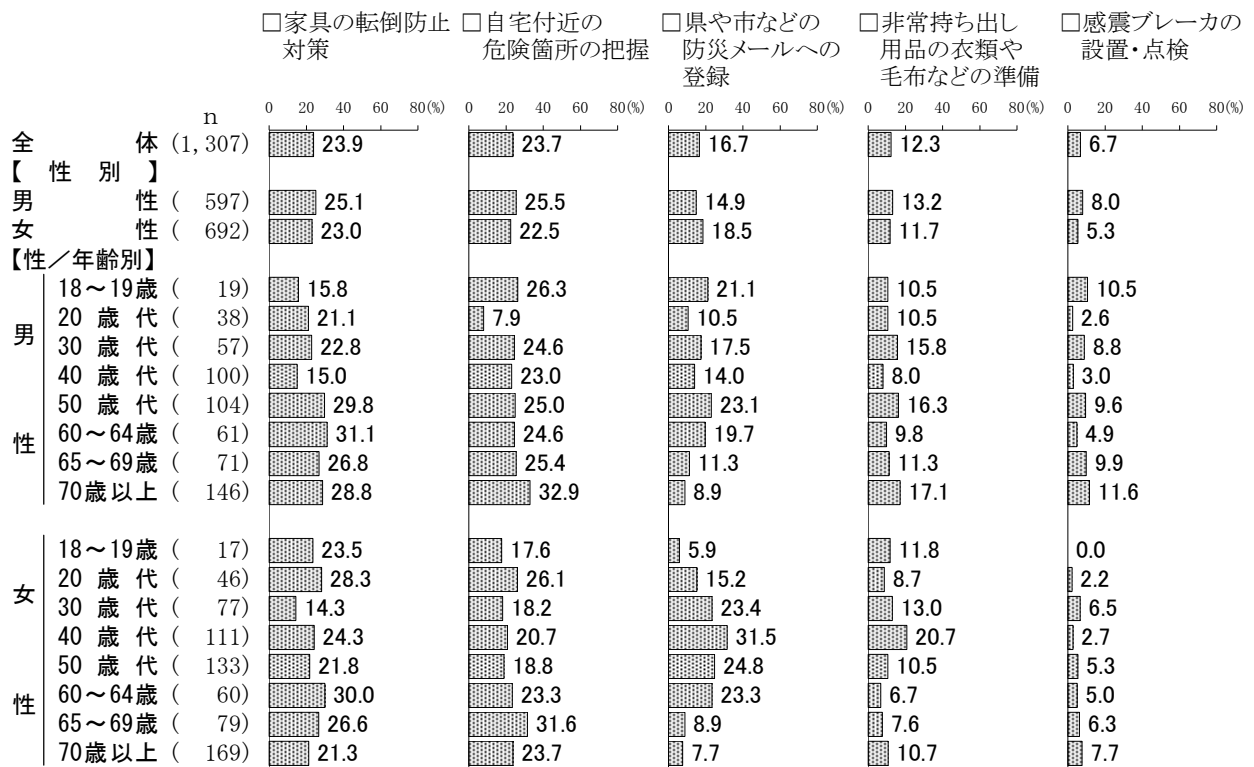
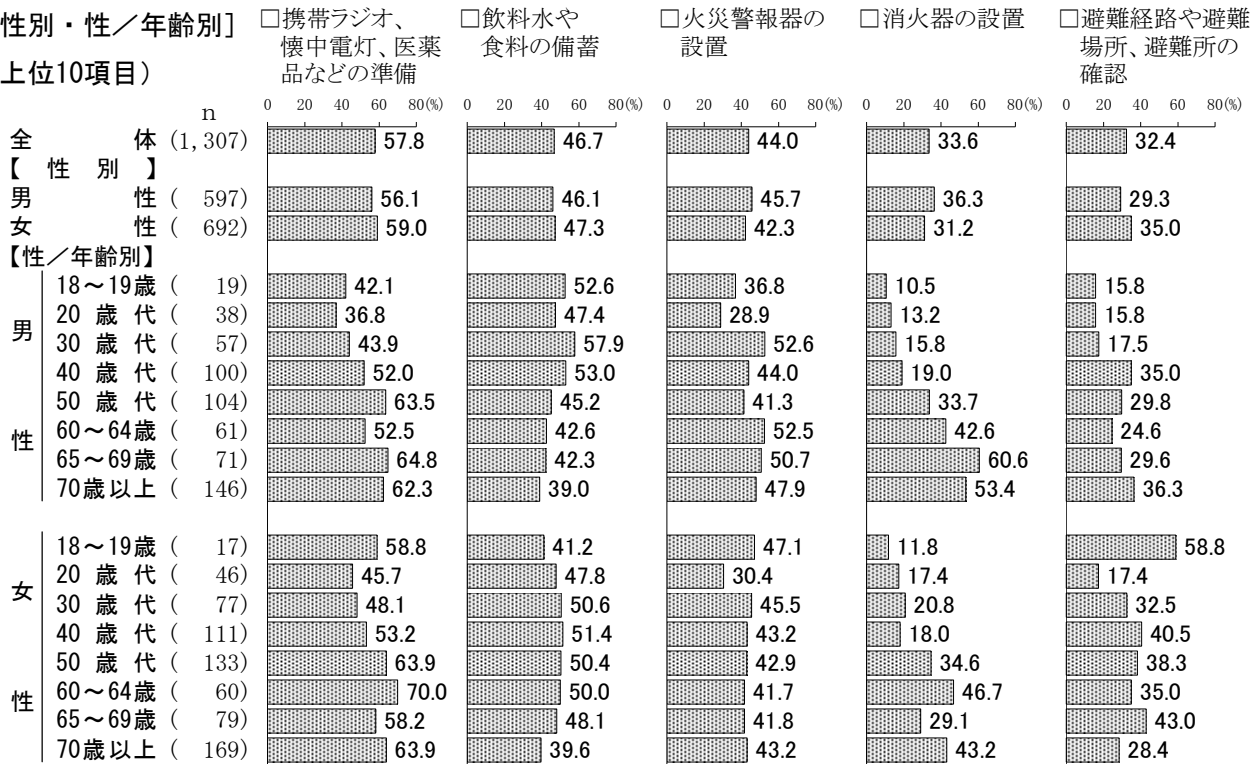
※ 感震ブレーカとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に、配線用ブレーカ又は漏電ブレーカなどを遮断する器具をいいます。



全体でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(57.8%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(46.7%)、「火災警報器の設置」(44.0%)、「消火器の設置」(33.6%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(32.4%)の順となっている。

令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「飲料水や食料の備蓄」が8.8ポイント、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」が4.4ポイント、それぞれ増加している。

【性別・性／年齢別】
（上位10項目）

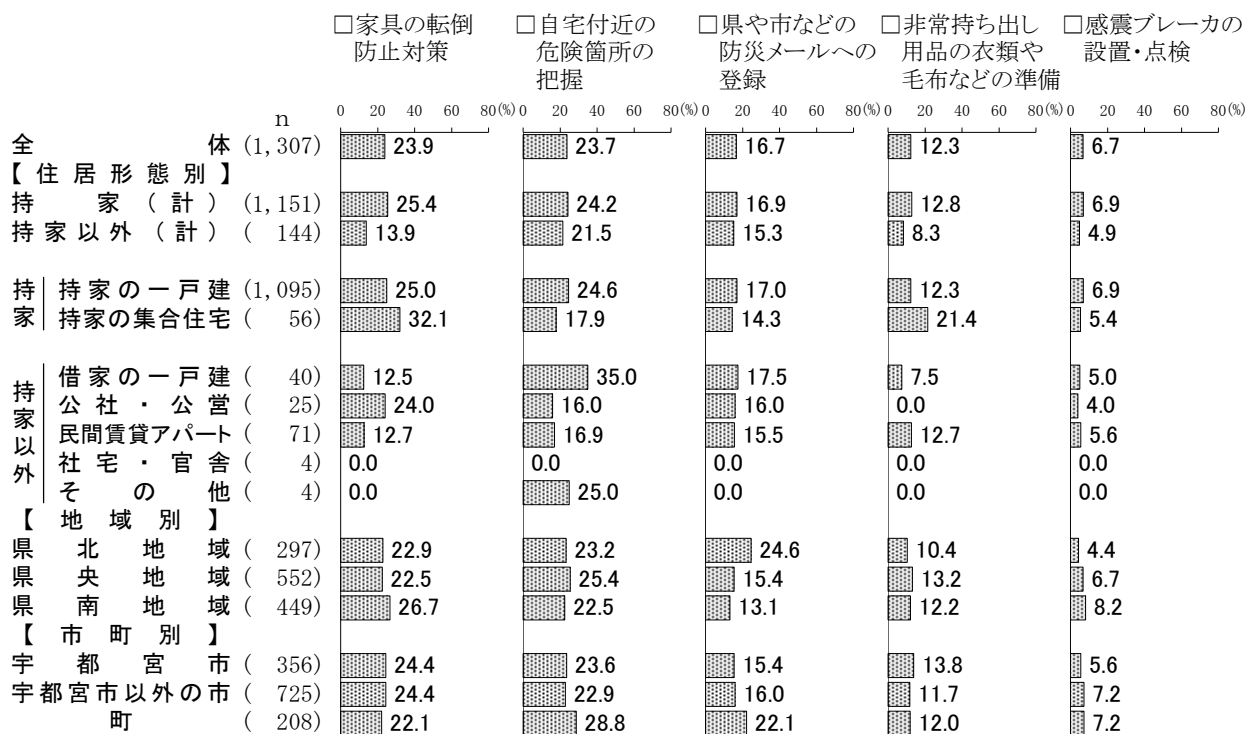
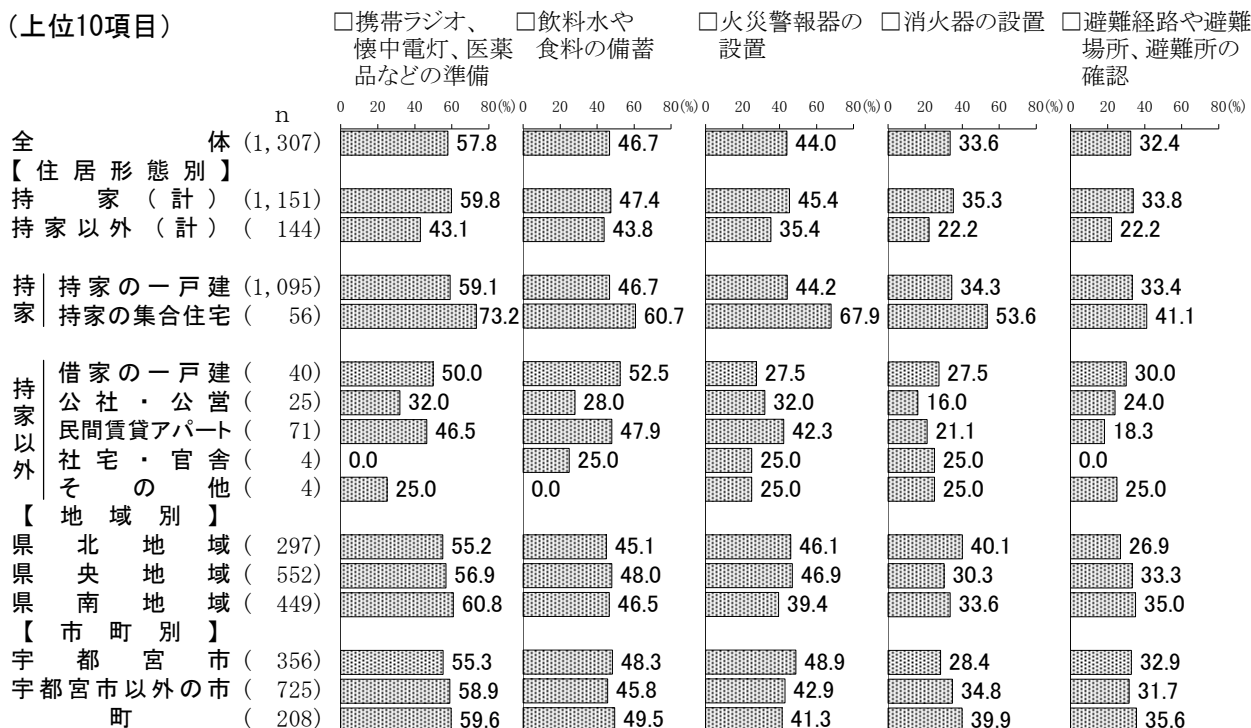


性別で見ると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉（35.0%）が〈男性〉（29.3%）より5.7ポイント高くなっている。「消火器の設置」では〈男性〉（36.3%）が〈女性〉（31.2%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性60～64歳〉が70.0%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈男性30歳代〉が57.9%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が60.6%、〈男性70歳以上〉が53.4%、〈女性60～64歳〉が46.7%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が43.0%と高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈男性70歳以上〉が32.9%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が31.5%と高くなっている。

[住居形態別・地域別・市町別]

(上位10項目)



住居形態別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈持家(計)〉(59.8%)が〈持家以外(計)〉(43.1%)より16.7ポイント高くなっている。「消火器の設置」では〈持家(計)〉(35.3%)が〈持家以外(計)〉(22.2%)より13.1ポイント高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈持家(計)〉(33.8%)が〈持家以外(計)〉(22.2%)より11.6ポイント高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈持家(計)〉(25.4%)が〈持家以外(計)〉(13.9%)より11.5ポイント高くなっている。

地域別でみると、「消火器の設置」では〈県北地域〉が40.1%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が24.6%と高くなっている。

市町別でみると、「県や市などの防災メールへの登録」では〈町〉が22.1%と高くなっている。

(2) 災害の際に必要な情報について知っていること

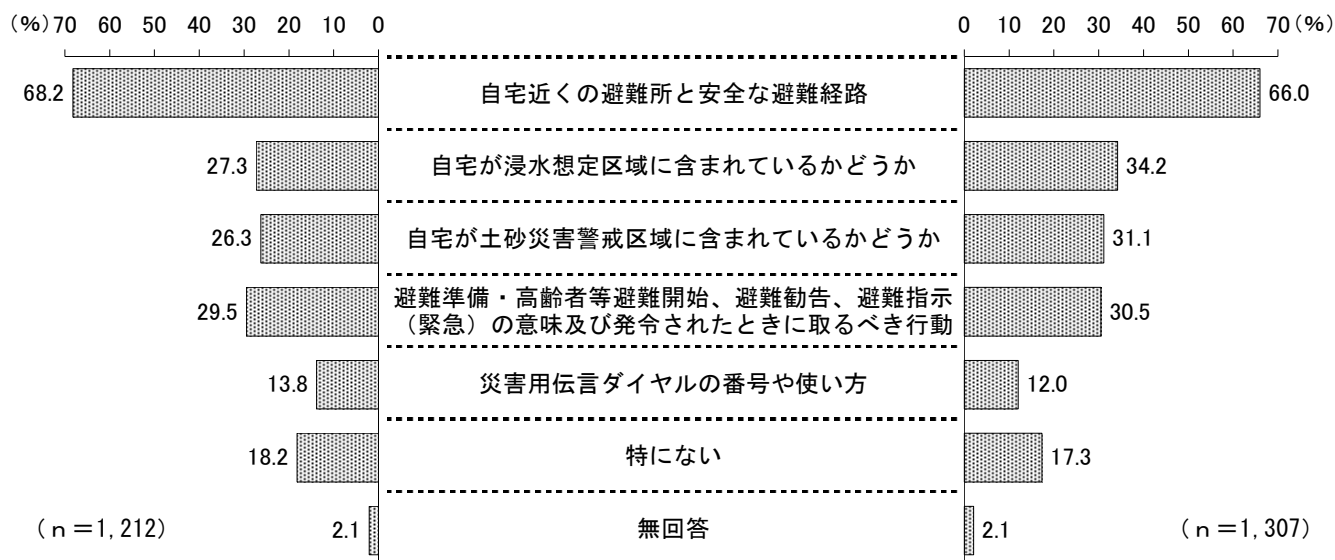
問16 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。
次の中からいくつでも選んでください。

[n = 1, 307]

1	自宅近くの避難所と安全な避難経路	66.0%
2	避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の意味及び発令されたとき取るべき行動	30.5
3	自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか	31.1
4	自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか	34.2
5	災害用伝言ダイヤルの番号や使い方	12.0
6	特にない	17.3
	(無回答)	2.1

【令和元(2019)年】

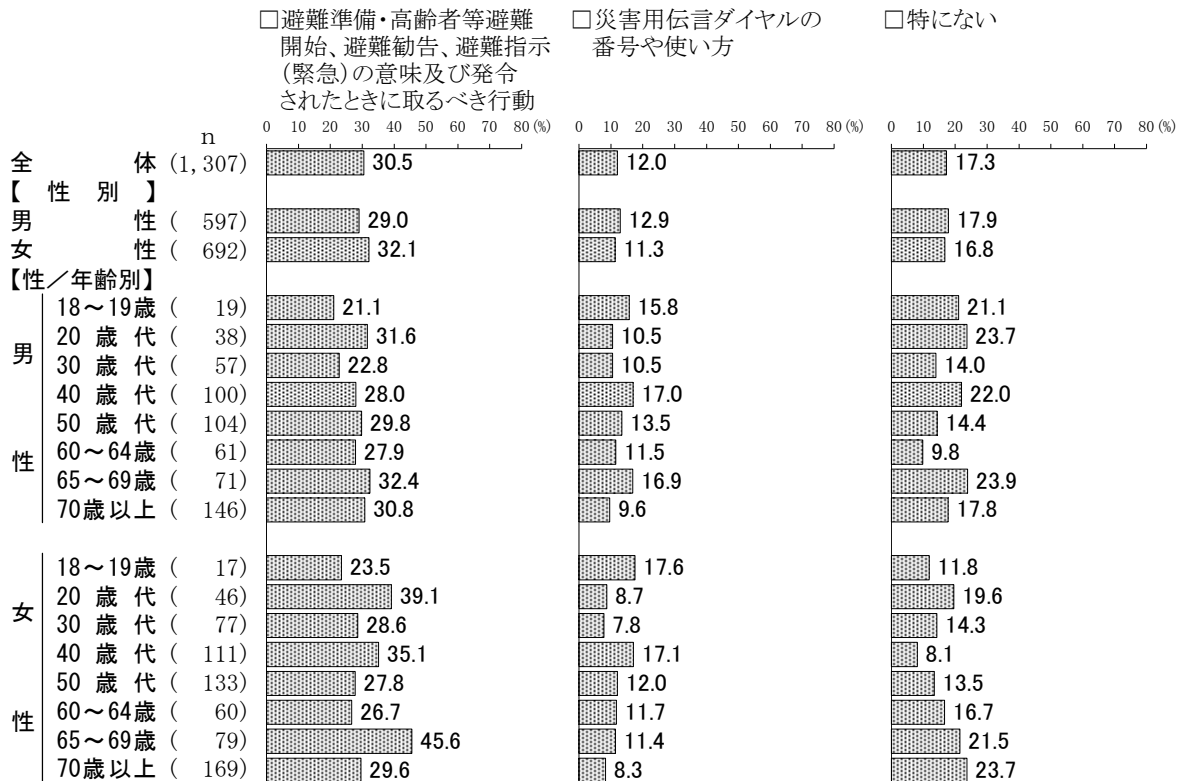
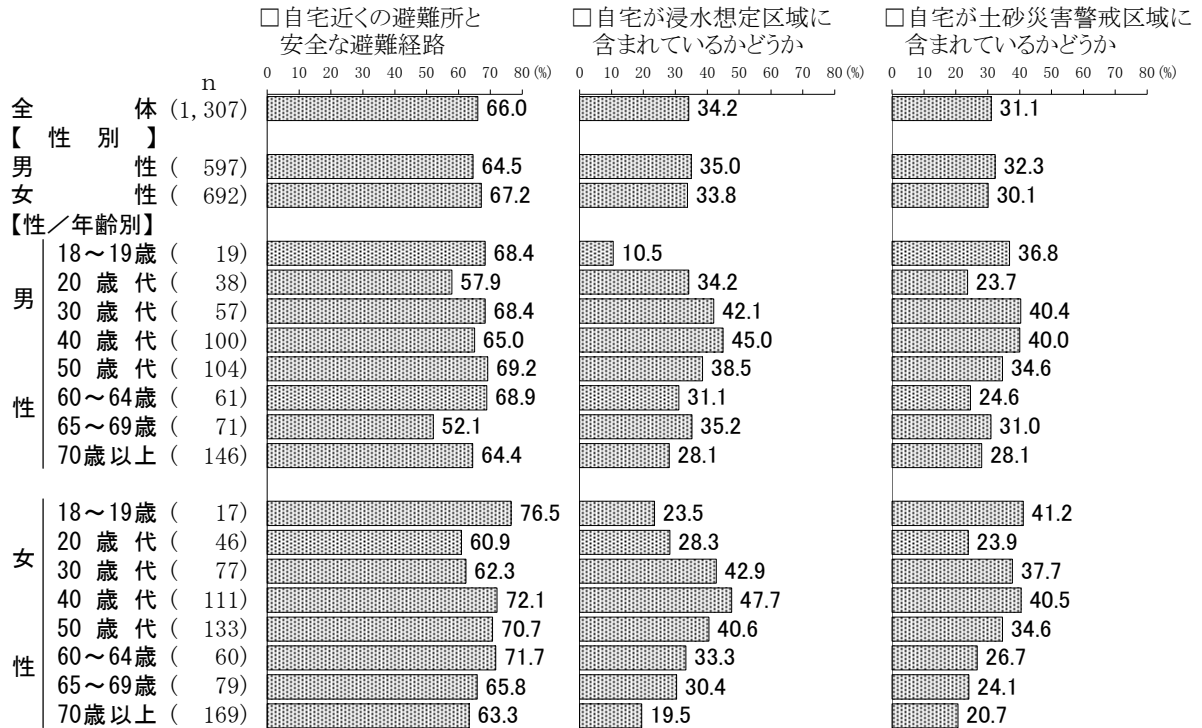
【令和2(2020)年】



全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(66.0%)が6割半ばで最も高く、次いで「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(34.2%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(31.1%)、「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の意味及び発令されたとき取るべき行動」(30.5%)、「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」(12.0%)の順となっている。

令和元(2019)年の調査結果と比較すると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」が6.9ポイント、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」が4.8ポイント、それぞれ増加している。

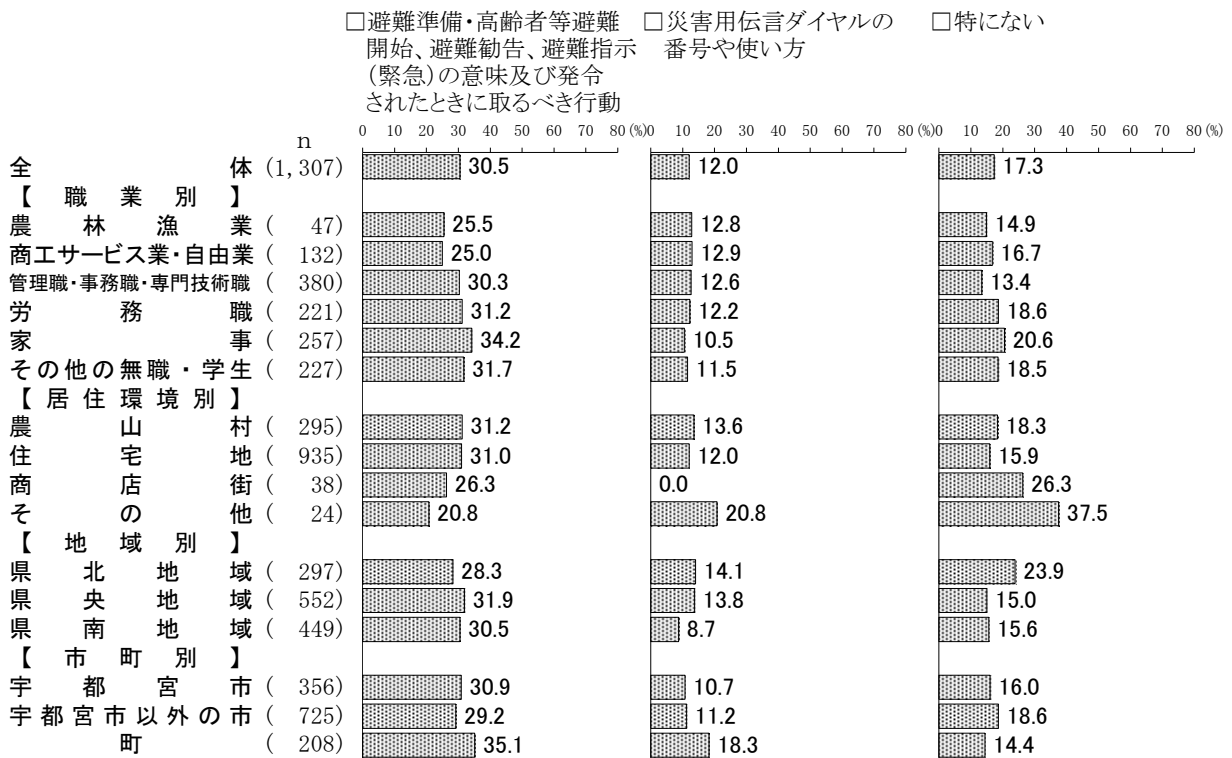
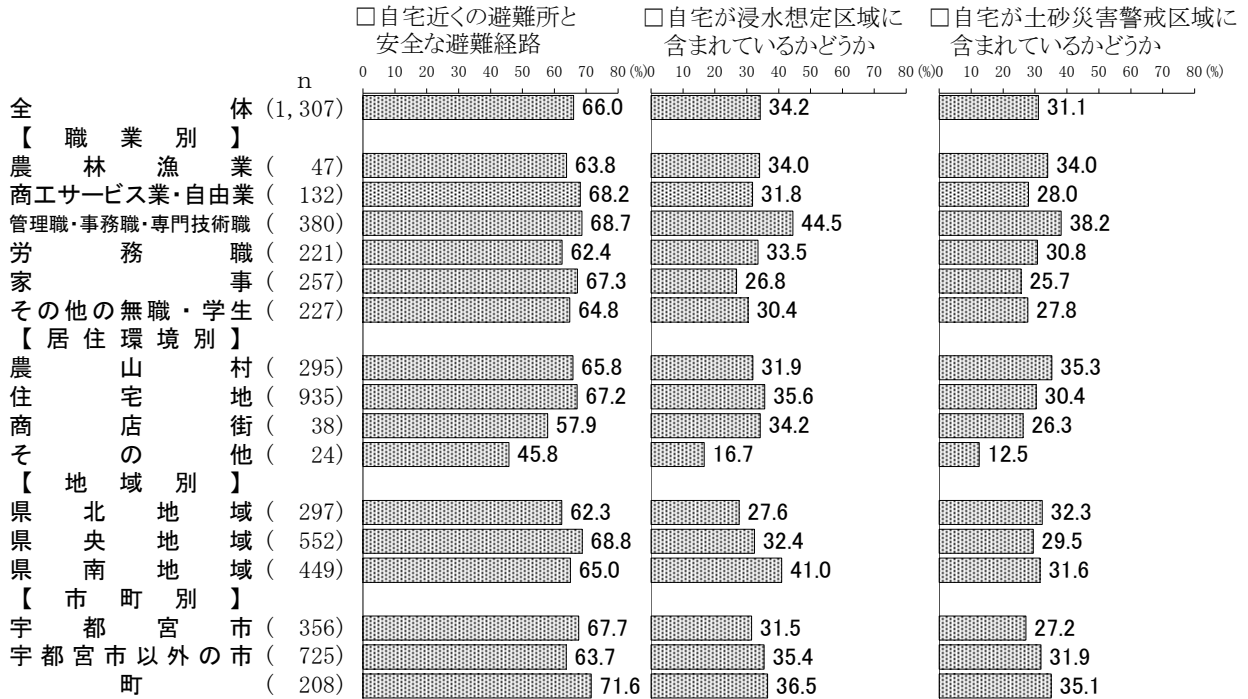
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の意味及び発令されたとき取るべき行動」では〈女性〉（32.1%）が〈男性〉（29.0%）より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が47.7%、〈男性40歳代〉が45.0%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が40.5%と高くなっている。「避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の意味及び発令されたとき取るべき行動」では〈女性65～69歳〉が45.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が44.5%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が38.2%と高くなっている。

居住環境別でみると、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈農山村〉が35.3%と高くなっている。

地域別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈県南地域〉が41.0%と高くなっている。

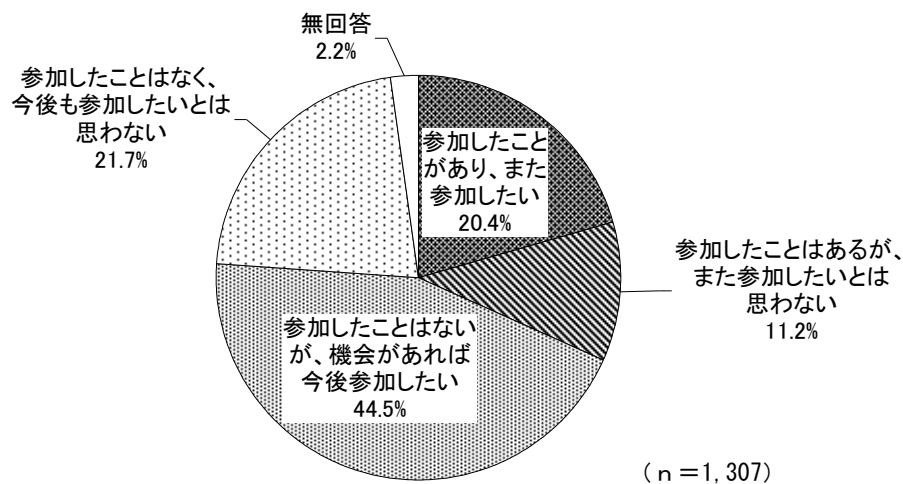
市町別でみると、「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」では〈町〉が18.3%となっている。

(3) 防災訓練の参加状況

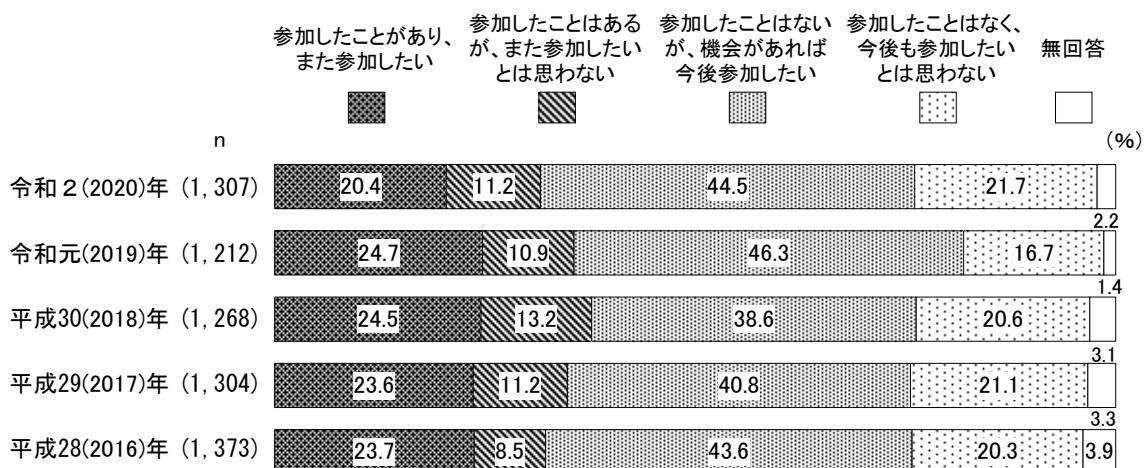
問17 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,307]

1	参加したことがあります、また参加したい	20.4%
2	参加したことはあるが、また参加したいとは思わない	11.2
3	参加したことはないが、機会があれば今後参加したい	44.5
4	参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	21.7
	(無回答)	2.2

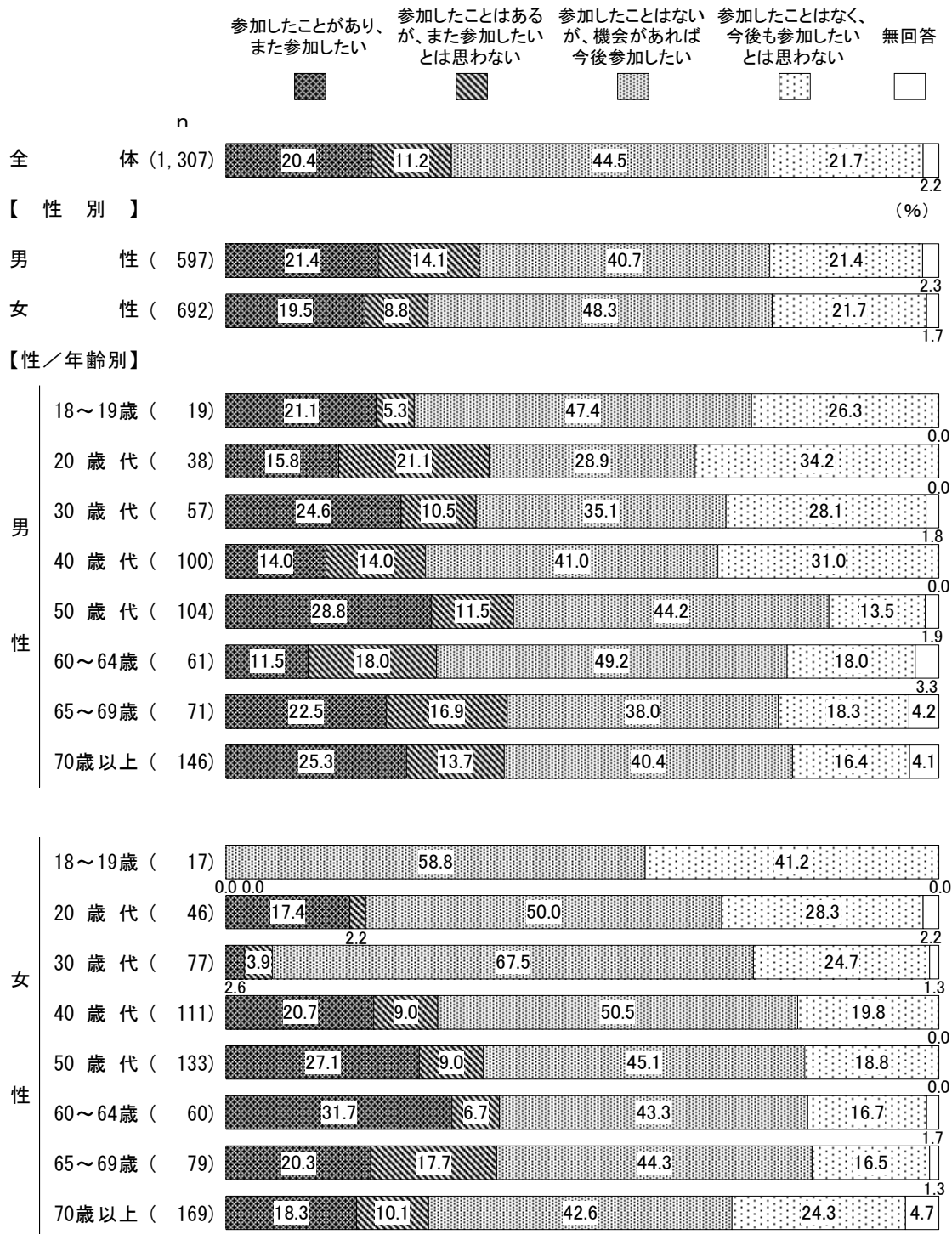


全体でみると、「参加したことがあります、また参加したい」(20.4%)が2割となっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(44.5%)は4割半ばで、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(21.7%)は2割を超えている。



過去の調査結果と比較すると、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が令和元(2019)年より5.0ポイント増加している。一方、「参加したことがあります、また参加したい」が令和元(2019)年より4.3ポイント減少している。

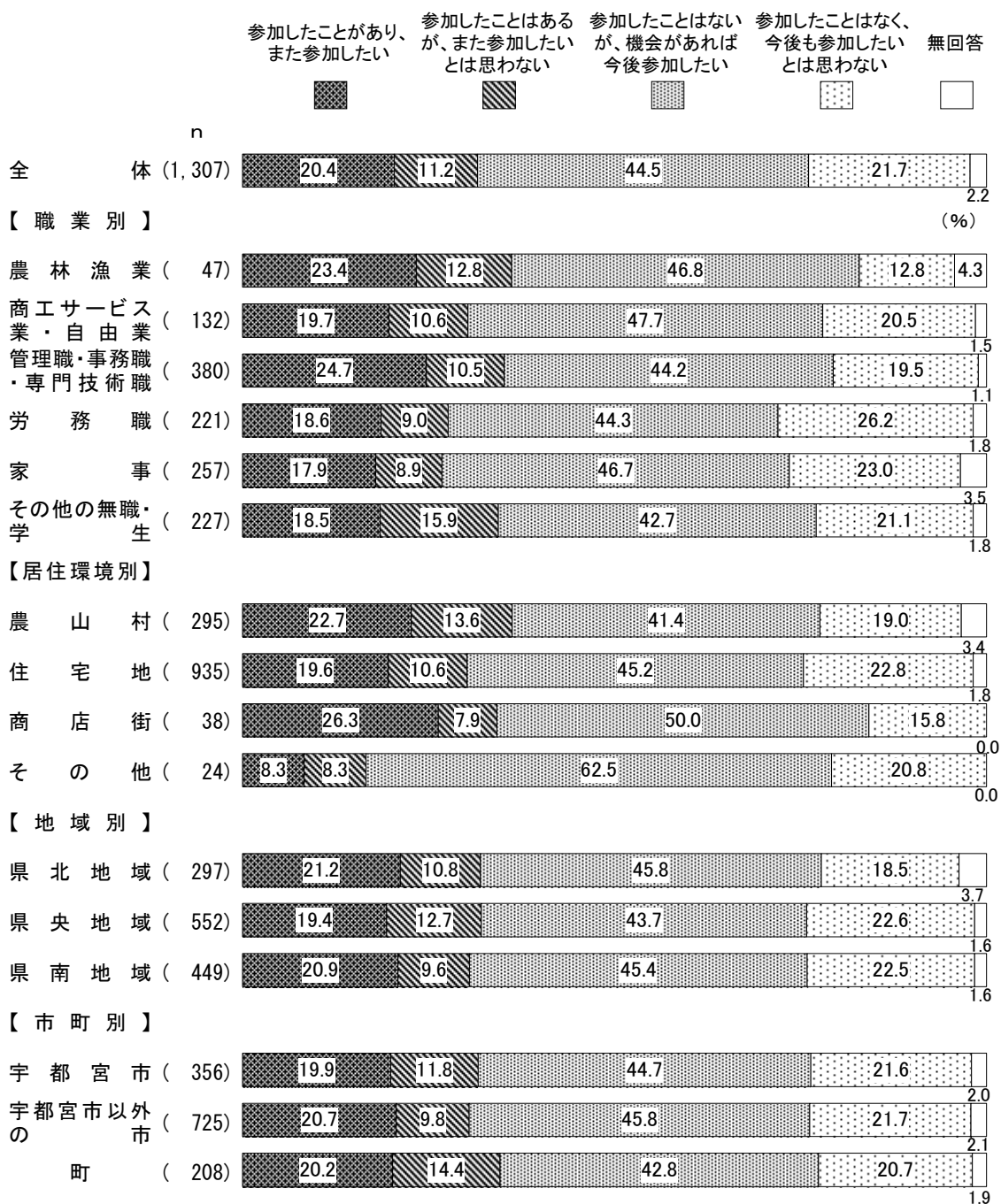
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(48.3%)が〈男性〉(40.7%)より7.6ポイント高くなっている。「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性〉(14.1%)が〈女性〉(8.8%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性60～64歳〉が31.7%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が67.5%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈男性20歳代〉が34.2%、〈男性40歳代〉が31.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が24.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈商店街〉が50.0%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。